

IFFS/
AFS2009

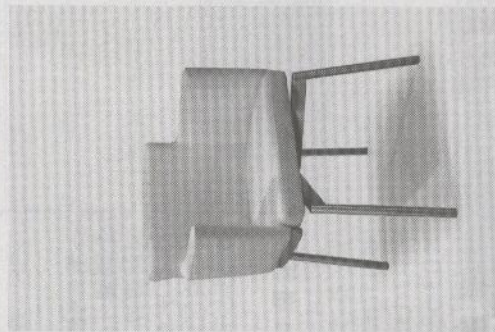
シンガポールデザインを アジアから世界へ

(6)

シンガポール優良企業である「モザイク」のメンバーであるG F F Z BROS. & CO. (ゲッツブロス・アンド・コー) シンガポール社を紹介する。1860年創業の国際企業であるゲッツブロス社は、現在世界25カ国に50以上の子会社を持つ。1977年、そのグループカンパニーとして、インテリアビジネスに参入するゲッツ・シンガポール社は設立された。

今回は昨年に続く連続出展で、ホールの6にベッド、ソファ、ダイニングセット、ボード類など新製品を出展した。同社はオフィス家具に注力する中で、張り地家具を多く出品していた。

輸出部門のマネジャー



④ゲッツブロス・シンガポール社のチェアを使用したルームカーター

ゲッツブロス・シンガポール社 老舗ブランド、 テーマカラーは白と黒

今年のテーマカラーはホワイトとブラック。従

来はホワイトの商品が比較的多かったという。輸出先は中東に加え、ヨーロッパ、アジア、タイなど。日本への輸出は未定だが、氏は「昨日(同展初日)訪れた日本のバイヤーは、ダイニングセットに関心を示していた。市況が回復すれば日本へ進出したい」と考

えている。見本市出展は、シンガポールを継続的に行うほか、タイ、ドバイ、ケルン、中国を検討している。4月22日から27日にミラノで開催されたサロネ2009にも出展した。

同社がショールームを構える国際家具センターは、2007年12月に設立された総床面積約5万㎡、5階建てのビル。シンガポール家具を世界へ発信する拠点として、シンガポール政府の支援のもと、同展主催社であるシンガポール家具産業組合が運営する。テナントは主に国内有名人カーで「2010スタイル・スタイル・アット・アム・&・スミス・セリー・デザインセンター」・「ステイファニチャーカンパニー」・「ラニチャー」・「クラフ・プロシット」・「モンテ・イラ・イラス」・「サルサルリビシ」などがある。重要なプラットフォームとして位置する。

(続く 小林)